

# 山陽新聞夕刊 [一日一題] 【序】

## 力愛不二、拳禪一如

岡山市病院事業管理者、岡山市立市民病院長 松本健五

私は脳神経外科医であり、岡山市立市民病院の院長、岡山市病院事業管理者と市民のみなさま、また社会との関わりの多い仕事をさせていただいています。5月20日で59歳となり還暦が目の前です。この機にふっと「光陰矢の如し」を実感し、現在は過去の積み重ねということに気づきました。私は、武蔵の里、旧大原町出身で、中学・高校と剣道部に所属し、「心・技・体」、特に「心」の重要性を学ばせていただきました。現在、岡山市立市民病院の基本理念は「心・技・体」です。心の通い合う医療の提供、質の高い安全な医療の提供、健全で自立した経営と働きやすい職場です。大学では「正義なき力は暴力であり、力なき正義は無力である」という少林寺拳法の教えを熱心に説く先輩に惹かれ入部し6年間修行しました。少林寺拳法は、単なるスポーツではなく、「金剛禅」という独自の教えに基づいて、仁王尊のような「金剛の肉体」と達磨の「不撓不屈の精神」を目指した修行法をとる宗門の行です。人間の脳の働きである「心」と「身」の双方の修養が必要であり、単に肉体を鍛えるだけの修行では価値がなく、鎮魂行など精神修養を行います。たとえ病に倒れても強靱な精神で乗り越えられる方を多々見受けます。「気」は大事なのです。

連載では、世界放浪の旅、脳の病気にまつわる話、健康づくり、現在の医療をめぐる問題などを題目として考えています。